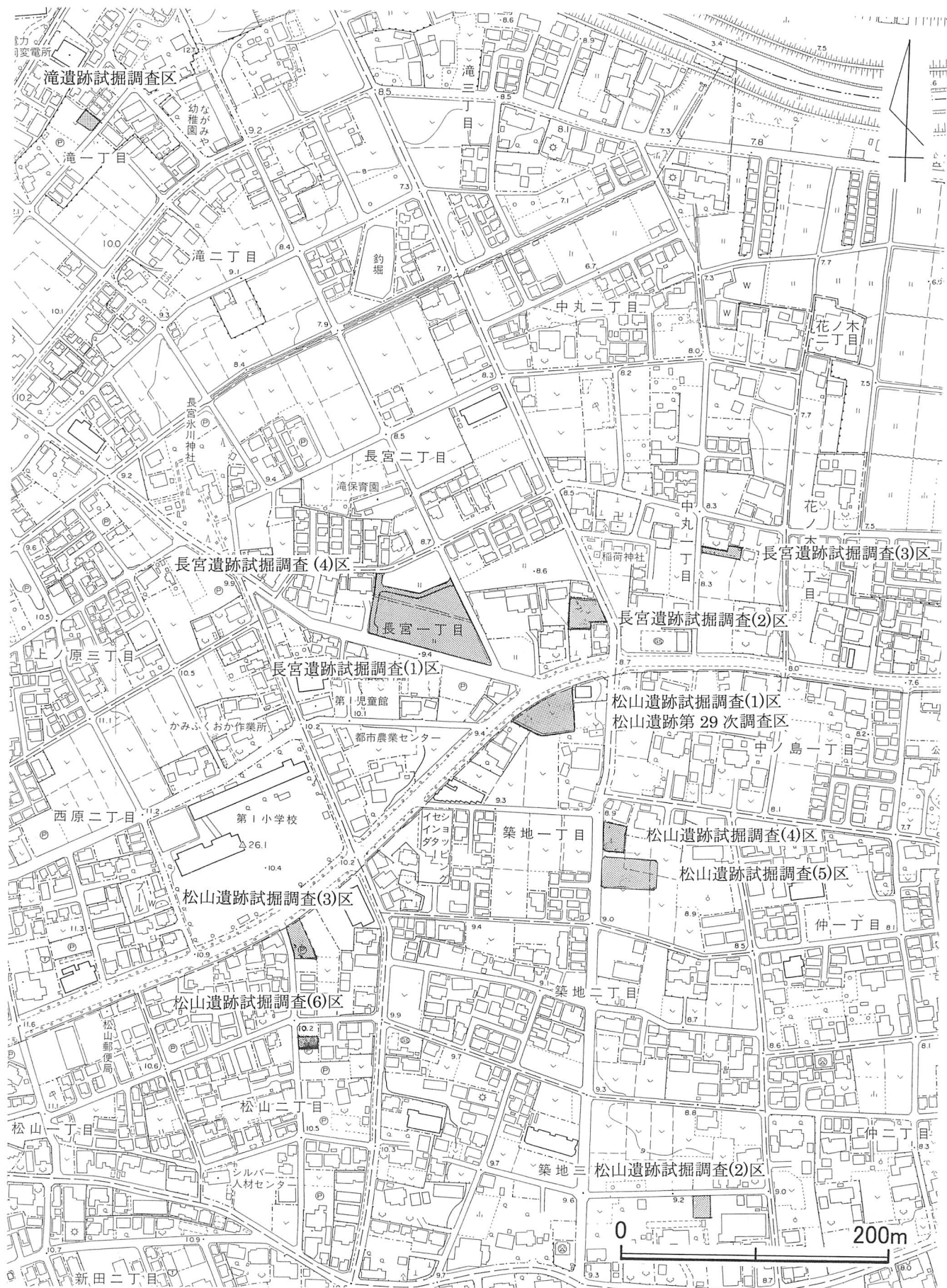


15 長宮遺跡試掘調査(3)	中丸 1 - 1 - 5	622 m ²	宅地造成(土地分譲)	9/3~11
16 松山遺跡試掘調査(6)	松山 2 - 6 - 5	147 m ²	個人住宅建設	9/9
17 長宮遺跡試掘調査(4)	長宮 1 - 3 - 31	362.19m ²	地区計画道路敷設	9/20~25
18 駒林遺跡試掘調査(4)	駒林字新田前280~ 282-2, 290, 292-1~298	1,150 m ²	区画整理予定地	11/11~27
19 北野遺跡試掘調査	北野 1 - 3058 - 1, 3114 - 1 の一部	100 m ²	公園歩道設置	11/28, 29



第1図 遺跡位置図 (1/15000)



第6図 滝・長宮・松山遺跡調査区位置図 (1/4000)

X 松山遺跡の試掘調査(6)

所在地 松山2-6-5

原因 個人住宅建設

調査面積 147㎡

調査期間 H14.9.9

調査担当 柳沢健司

出土遺物 なし

遺構等 なし



松山遺跡試掘調査(6)作業風景（西より）

調査区は、標高10mの平坦地で、第3号住居跡が確認された2次調査区に南隣にあたる。新たな竪穴住居跡の確認を目的に南側土地境界線を基準に西へ向かって1～8区、北へ向かってA～E区を図面上で設定した。

調査区の位置

9月9日、現地にて図示したように幅1.5mのトレンチを2本設定し、重機にて表土除去作業を行ない、人力にてローム面を精査した。基本土層は東側部分（トレンチ東端から3mの位置）では、地表面が現況で10cm弱高く、駐車場設置の際の碎石層が25cm、その下が碎石を敷く際に下に敷かれたロームの層10cm、その下に暗褐色土層が続き、ローム面までは、110cmであった。西側（トレンチ東端から10mの位置）では、碎石の下のロームの層がなく、ローム面まで70cmであった。

調査の経過

遺構・遺物ともに確認されなかったため、埋め戻して、当日中に調査を終了した。

XI 松山遺跡第29次調査

所在地 築地1-2-8の一部

原因 個人住宅建設

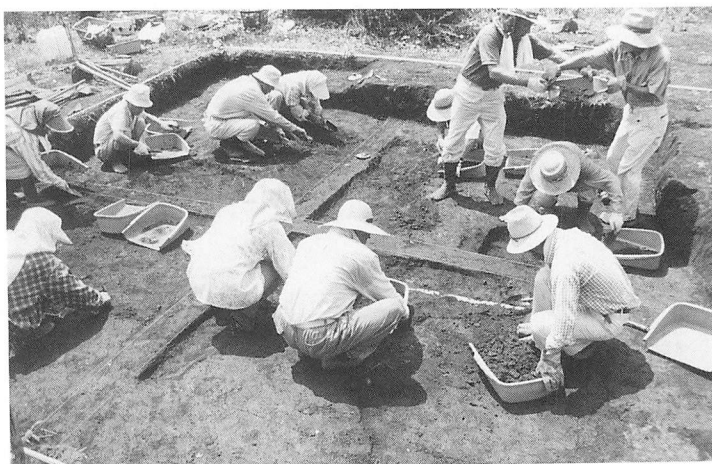
調査面積 36㎡

調査期間 H14.7.2～8.9

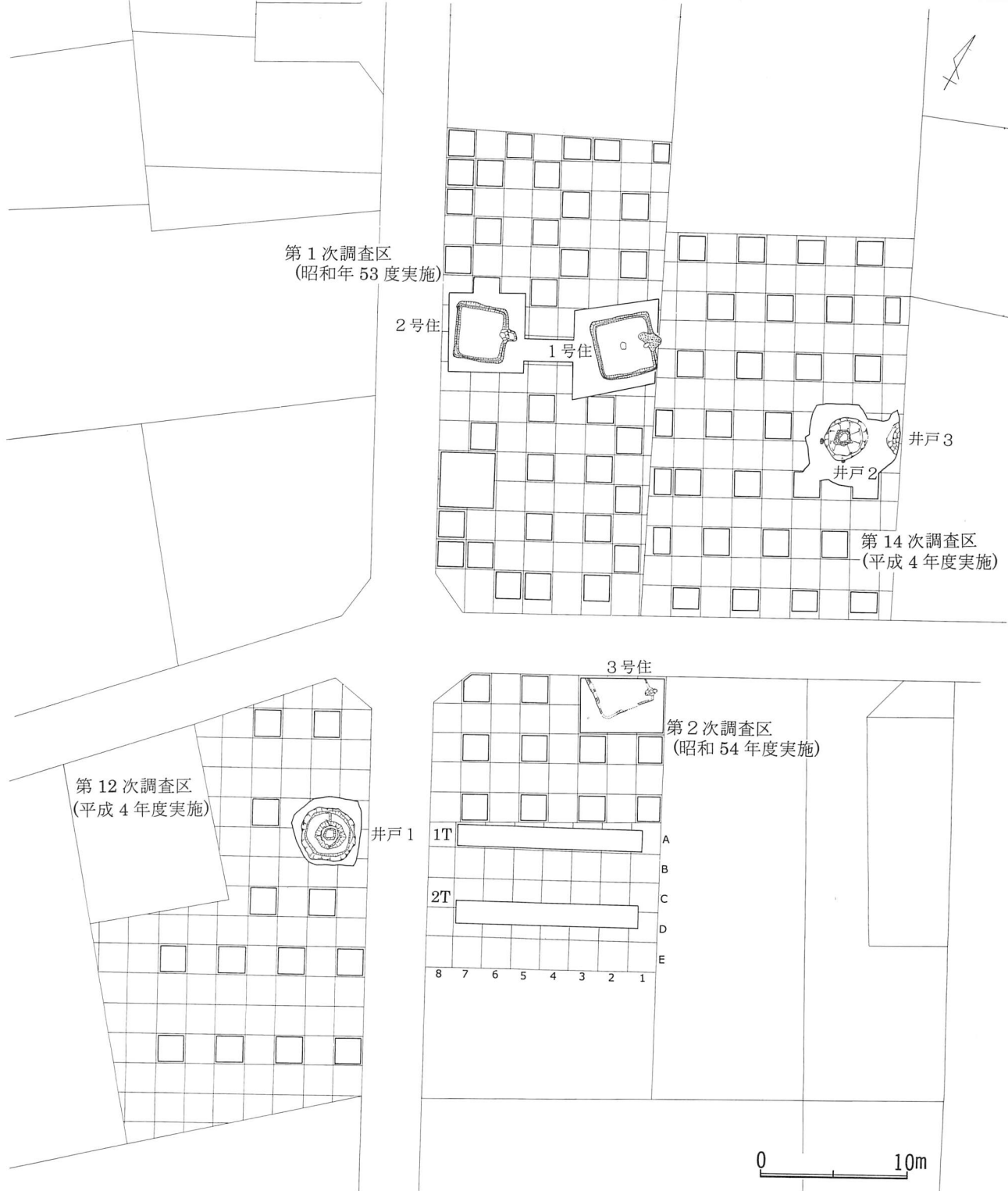
調査担当 柳沢健司

出土遺物 土師器破片

遺構等 竪穴住居跡1軒（飛鳥時代）



松山遺跡第26号住居跡覆土除去
作業風景（北より）



第11図 松山遺跡試掘調査(6)区全測図 (1/400)

今回調査を行った第26号住居の立地は、松山遺跡の北端部分であり、北西方向は、埋蔵文化財包蔵地台帳では長宮遺跡の範囲となっている。平成8年度に長宮遺跡で古墳時代終末期の住居跡（5号住）が確認された地点から東方90m、また今年度6月に試掘調査で確認された長宮遺跡第7号住居から南東100m、7世紀後半の住居跡（15号住）が確認された松山遺跡第20次調査区から北東100mの位置にあたる。いずれの住居跡も似通った時期のものであるため出土遺物の詳細な検討が必要であるが、現在の松山遺跡、長宮遺跡という台帳上の包蔵地をまたいで同じ集落の可能性もある。

調査は、7月2日に人力による表土除去とローム面精査から開始した。4日の午前中に表土除去、ローム面精査を終え、午後から住居のプラン確認と覆土除去作業に取りかかった。5日引き続き覆土除去を続